第27講　確率（さいころ）

Step 1

1　次のア～エの文章は，さいころの目の出方について説明したものである。ア～エの中から正しいものをすべて選び，その記号を書きなさい。

ただし，さいころの目の出方は，1，2，3，4，5，6 の 6 通りであり，どの目が出ることも同様に確からしいものとする。

ア．さいころを 3000 回投げるとき，500 回ぐらい 6 の目が出る。

イ．さいころを 60 回投げるとき，10 回は必ず 6 の目が出る。

ウ．さいころを 6 回投げるとき，6 の目が 1 回も出ないこともある。

エ．さいころを 1 回投げて 6 の目が出たら，次にこのさいころを投げるときは，6 の目が出る確率は $\frac{1}{6}$ より小さくなる。

【三重県】

2　1 個のさいころを 2 回投げる。1 回目に出た目の数を十の位の数，2 回目に出た目の数を一の位の数として記録し，2 けたの整数をつくる。ただし，さいころの目は 1 から 6 まであり，どの目が出ることも同様に確からしいとする。このとき，次の(1)～(3)に答えよ。

(1)　このようにしてできる 2 けたの整数は全部で何通りあるか。

(2)　このようにしてできる 2 けたの整数が 5 の倍数である確率を求めよ。

(3)　このようにしてできる 2 けたの整数の十の位の数が，一の位の数より大きくなる確率を求めよ。

【長崎県】

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

3　大小２つのさいころを同時に投げるとき，大きいさいころの出る目の数を x，小さいさいころの出る目の数を y とする。

このとき，(1)〜(3)の各問いに答えなさい。

(1)　$x + y$ の値が８となる確率を求めなさい。

(2)　xy の値が３の倍数となる確率を求めなさい。

(3)　$\dfrac{x + y}{4}$ の値が整数となる確率を求めなさい。

【佐賀県】

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

Step　2

4　右の写真のような1から6までの目がある大小2つのさいころを同時に投げる。大きいさいころの出た目の数を2倍した数と小さいさいころの出た目の数の和を n とする。

このとき，次の問い(1)・(2)に答えよ。ただし，それぞれのさいころの1から6までの目の出方は同様に確からしいものとする。

写真

(1)　$n = 12$ となる確率を求めよ。

(2)　$\dfrac{228}{n}$ の値が整数となる確率を求めよ。

【京都府】

5　1つのさいころを2回投げ，1回目に出た目の数を a，2回目に出た目の数を b とするとき，$\sqrt{a(b+3)}$ が整数となる確率を求めなさい。

【愛知県】

6　二つのさいころを同時に投げ，出る目の数の和を a，出る目の数の積を b とするとき，$a \geqq b$ である確率はいくらですか。1から6までのどの目が出ることも同様に確からしいものとして答えなさい。

【大阪府】

7　2つのさいころA, Bを同時に1回投げて, Aのさいころの出た目の数を a, Bのさいころの出た目の数を b とする。このとき,「□になる確率は $\dfrac{1}{12}$ である」が成り立つように, □に当てはまる等式を1つ，a，b を用いて表せ。

【奈良県】

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

Step　3

8　下の図のゲーム盤を使い，【ルール】に従ってゲームを行う。ただし，ゲーム盤の数字はゴールするまでに必要な数を表し，さいころの１から６までの目の出かたは同様に確からしいとする。

（ゲーム盤）　⑬-⑫-⑪-⑩-⑨-⑧-⑦-⑥-⑤-④-③-②-①-ゴール

【ルール】

［１］　スタートの位置をゲーム盤の①～⑬の中から１つ選び，コマを置く。

［２］　２つのさいころを同時に１回投げ，出た目の数の和だけゴールに向かってコマを進める。

［３］　出た目の数の和がゴールまでに必要な数をこえるときは，こえた数だけゴールからもどる。

例えば，スタートの位置を③に選び，出た目の数の和が７のときは，②①ゴール①②③④と進み，ゴールすることができない。このとき，次の問いに答えよ。

(1)　このゲームで，どのような目が出てもゴールすることができないスタートの位置はどこか，①～⑬の中から，すべて答えよ。

(2)　スタートの位置を②，⑤，⑧の３つの中から１つ選ぶとき，どの位置がもっともゴールしやすいか，解答欄の（　　）に②，⑤，⑧のいずれかを書き入れ，言葉や数，式などを使って説明せよ。

（　　）がもっともゴールしやすい。

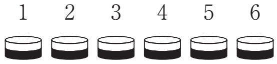
(説明)(　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　)

【福井県】

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

9　図1のように，片方の面が白，もう片方の面が黒である円形の石が6個あり，左から順に1から6までの番号をつける。この6個の石すべてを白の面を上にして置き，次の操作を2回続けて行うことにした。

図1



〈操作〉

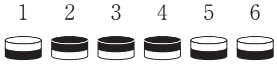
1個のさいころを投げて，出る目の数を a とする。

・$a \leqq 3$ のときは，a 番の石だけを裏返す。

・$a \geqq 4$ のときは，a 番の石と a 番の石より左側にあるすべての石を裏返す。

例えば，1回目に1の目が出て，2回目に4の目が出るとき，図2のようになり，黒の面が上になっている石は3個となる。

図2



① 1回目に5の目が出て，2回目に2の目が出るとき，黒の面が上になっている石は何個となるか求めなさい。

② 黒の面が上になっている石が2個となる確率を求めなさい。

【熊本県】

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製·転載を禁止します。

〈 ***Note*** 〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

第27講　確率（さいころ）

Step　1

1　ア・ウ

≪解説≫

ア．$3000 \times \dfrac{1}{6} = 500$ より，500 回ぐらい 6 の目が出る。

イ．$60 \times \dfrac{1}{6} = 10$ であるが，必ず 10 回は 6 の目が出るとはいえない。

ウ．6 の目が必ず 6 回に 1 回出るわけではないので，正しい。

エ．6 の目が出たあとも，次に 6 の出る確率は $\dfrac{1}{6}$ で変わらない。

2　(1) 36（通り）　(2) $\dfrac{1}{6}$　(3) $\dfrac{5}{12}$

≪解説≫

(1) 十の位は 1～6 の 6 通り，一の位も 1～6 の 6 通りだから，$6 \times 6 = 36$（通り）

(2) 5 の倍数は，15，25，35，45，55，65 の 6 通りだから，求める確率は，$\dfrac{6}{36} = \dfrac{1}{6}$

(3) 十の位の数が一の位の数より大きいのは，21，31，32，41，42，43，51，52，53，54，61，62，63，64，65 の 15 通りだから，求める確率は，$\dfrac{15}{36} = \dfrac{5}{12}$

3　(1) $\dfrac{5}{36}$　(2) $\dfrac{5}{9}$　(3) $\dfrac{1}{4}$

≪解説≫

(1) $x + y = 8$ となるのは，$(x,\ y) = (2,\ 6)$，$(3,\ 5)$，$(4,\ 4)$，$(5,\ 3)$，$(6,\ 2)$ の 5 通り。2 つのさいころを同時に投げたときの目の出方は全部で，$6 \times 6 = 36$（通り）なので，求める確率は $\dfrac{5}{36}$。

(2) xy の値が 3 の倍数になるには，x か y の少なくとも一方が 3 の倍数であればよい。x，y のどちらも 3 の倍数でない場合は，x が，1，2，4，5 の 4 通りで，y もその 4 通りが出るときだから，$4 \times 4 = 16$（通り）　よって，x か y の少なくとも一方が 3 の倍数である場合は，$36 - 16 = 20$（通り）となり，求める確率は，$\dfrac{20}{36} = \dfrac{5}{9}$

(3) $x + y$ が 4 の倍数になればよい。$x + y = 4$ となる場合が，$(x,\ y) = (1,\ 3)$，$(2,\ 2)$，$(3,\ 1)$ の 3 通り。$x + y = 8$ となる場合が，(1)より，5 通り。$x + y = 12$ となる場合が，$(x,\ y) = (6,\ 6)$ の 1 通り。よって，全部で，$3 + 5 + 1 = 9$（通り）で，求める確率は，$\dfrac{9}{36} = \dfrac{1}{4}$

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Step　2

4　(1) $\frac{1}{12}$　(2) $\frac{7}{36}$

≪解説≫

(1) 大小2つのさいころを同時に投げるとき，出た目の数の場合の数は，$6 \times 6 = 36$（通り）　そのうち，$n = 12$ となる場合は，(大，小) = (3，6)，(4，4)，(5，2)の3通り。よって，求める確率は，$\frac{3}{36} = \frac{1}{12}$

(2) $\frac{228}{n}$ の値が整数となるのは，n が228の約数のとき。n は，$1 \times 2 + 1 = 3$ 以上，$6 \times 2 + 6 = 18$ 以下なので，$228 = 2^2 \times 3 \times 19$ より，n が228の約数となるのは，3，$2^2 = 4$，$2 \times 3 = 6$，$2^2 \times 3 = 12$ のとき。よって，$\frac{228}{n}$ の値が整数となる場合は，(大，小) = (1，1)，(1，2)，(1，4)，(2，2)，(3，6)，(4，4)，(5，2)の7通りだから，求める確率は $\frac{7}{36}$。

5　$\frac{7}{36}$

≪解説≫

1つのさいころを2回投げるとき，出る目の場合の数は，$6 \times 6 = 36$（通り）　そのうち，$\sqrt{a(b + 3)}$ が整数となる場合は，$a(b + 3)$が平方数となる a，b の組合せを考えて，(a，b) = (1，1)，(1，6)，(2，5)，(4，1)，(4，6)，(5，2)，(6，3)の7通り。よって，求める確率は $\frac{7}{36}$。

6　$\frac{1}{3}$

≪解説≫

二つのさいころの目の出方は全部で，$6 \times 6 = 36$（通り）　a，b の表は右図のようになり，このうち，$a \geqq b$ となるのは，色をつけた12通りだから，求める確率は，$\frac{12}{36} = \frac{1}{3}$

a（和）

	1	2	3	4	5	6
1	2	3	4	5	6	7
2	3	4	5	6	7	8
3	4	5	6	7	8	9
4	5	6	7	8	9	10
5	6	7	8	9	10	11
6	7	8	9	10	11	12

b（積）

	1	2	3	4	5	6
1	1	2	3	4	5	6
2	2	4	6	8	10	12
3	3	6	9	12	15	18
4	4	8	12	16	20	24
5	5	10	15	20	25	30
6	6	12	18	24	30	36

7　(例) $a + b = 4$

≪解説≫

2つのさいころの目の出方は全部で，$6 \times 6 = 36$（通り）　$\frac{1}{12} = \frac{3}{36}$ なので，場合の数が3になるような等式を考えると，$a + b = 4$ や $ab = 4$ がある。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Step　3

8　(1) ①・⑬　(2) ⑧(がもっともゴールしやすい。)

≪解説≫

(1) 2つのさいころの出た目の数の和は，2以上12以下の整数だから，①と⑬にコマを置くと，どのような目が出てもゴールすることができない。

(2) 2つのさいころをA，Bとする。スタートの位置が②の場合，ゴールできる目の出方は，(A，B) = (1，1)の1通り。2つのさいころの目の出方は全部で36通りだから，確率は$\frac{1}{36}$。スタートの位置が⑤の場合，ゴールできる目の出方は，(A，B) = (1，4)，(2，3)，(3，2)，(4，1)の4通りだから，確率は，$\frac{4}{36} = \frac{1}{9}$　スタートの位置が⑧の場合，ゴールできる目の出方は，(A，B) = (2，6)，(3，5)，(4，4)，(5，3)，(6，2)の5通りだから，確率は$\frac{5}{36}$。よって，⑧がもっともゴールしやすい。

9　① 4 (個)　② $\frac{2}{9}$

≪解説≫

① 1回目に5の目が出ると，1〜5番の5個の石の上の面が黒に変わる。2回目に2の目が出ると，2番の石だけ上の面が白に戻るから，4個の石の上の面が黒となる。

② 1回目のさいころの目の数をp，2回目のさいころの目の数をqとすると，黒の面が上になっている石が2個となるのは，$p = 1$のとき，$q = 2$，3の2通り。$p = 2$のとき，$q = 1$，3の2通り。$p = 3$のとき，$q = 1$，2の2通り。$p = 4$のとき，$q = 6$の1通り。$p = 5$のときは0通りで，$p = 6$のとき，$q = 4$の1通り。よって，条件を満たす目の出方は，$2 + 2 + 2 + 1 + 1 = 8$ (通り)　2回のさいころの目の出方は全部で，$6 \times 6 = 36$ (通り)だから，求める確率は，$\frac{8}{36} = \frac{2}{9}$

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。